

**国際連合安全保障理事会改革に関する
G4（日本、ブラジル、ドイツ、インド）外相会合
共同プレス・ステートメント（仮訳）**

1 2022年9月22日、G4の外相である、カルロス・アルベルト・フランコ・フランサ・ブラジル外務大臣、アナレーナ・ベアボック・ドイツ連邦共和国外務大臣、スブラマニヤム・ジャイシャンカル・インド外務大臣及び林芳正日本国外務大臣は、第77回国連総会開会の機会を捉え、国際連合安全保障理事会の改革に関する意見交換を行った。

2 G4外相は、今日の世界各地における紛争並びに複雑さ及び相互の関連性が増す今日のグローバルな諸課題により、国連を改革し、その主要な意思決定諸機関を刷新する緊急性が明らかになっているとの見解に達した。

3 G4外相は、安全保障理事会がこれらの諸課題に効果的に対処できていないことは、安全保障理事会を改革して現代の地政学的現実をよりよく反映し、その実効性、正統性及び決定の実施を向上させることの緊要性を鮮明に示しているとの認識で一致した。

4 G4外相は、第76回国連総会での作業を振り返り、安全保障理事会の改革に関する政府間交渉で意味のある進展が得られていない状況が続いていることに懸念を表明した。

5 G4外相は、第76回国連総会において、政府間交渉が開放性及び透明性の欠如により制限されていることが改めて明らかになったとの認識で一致した。また、具体的な成果を得るため、政府間交渉は、国連憲章及び総会手続規則が定める意思決定の要件と作業方法によって実施されなくてはならないとの認識で一致した。

6 G4外相は、このプロセスを停滞させようとする調整された試みに失望を表明し、第77回国連総会において、より緊急性をもって、断固とした方法でこの問題に取り組むとのコミットメントを新たにした。G4外相は、第76回国連総会議長による、「文言ベースの交渉に向けプロセスを徐々に移行する」との明確な勧告を歓迎し、全ての代表団が第77回国連総会においてこの指針に則ることへの期待を表明した。

7 G4外相は、安全保障理事会をより代表性、正統性及び実効性の高い機関とするためには、常任及び非常任の双方の理事国のカテゴリーの拡大が不可欠であることを改めて表明した。

8 G4外相は、世界が今日直面する複雑かつ進化する国際の平和及び安全の課題に効果的に対応するため、安全保障理事会の能力を強化すべく、途上国及び主要な国連への貢献国の役割と存在感を高める必要があるとの認識で一致した。

9 G4外相は、アフリカ共通ポジションへの強い支持を再確認し、エズウィニ合意及びシルテ宣言に謳われているアフリカ共通ポジションに沿い、改革及び拡大された安全保障理事会の常任及び非常任の双方の理事国のカテゴリーにおいて、アフリカが代表される必要があることを強調した。

10 G4外相は、政府間交渉において、これ以上の遅延なく文言ベースの交渉を開始するために取り組むとの決意を新たにした。G4外相は、この目的のため、G4の国連代表団に対し、第77回総会議長及び政府間交渉（共同）議長とともに、国連総会で検討される決議案の基礎となる単一の統合された文書の作成を実現するために取り組むことを指示した。

11 G4外相は、2005年世界サミット成果文書において、全世界の首脳が全会一致で、「安保理の代表性、効率性及び透明性をより向上させ、またその実効性、正統性及び安保理の決定の実行を強化させるため、早期の安全保障理事会の改革を、国連を改革するための全般的な努力における不可欠な要素として」求めたことを想起し、政府間交渉のプロセスのペースが遅いことに懸念を表明した。この点において、他の国及びグループを含む全ての改革推進派の加盟国との対話を強化し、期限を設けて具体的成果の達成を目指すことを決定した。

12 G4外相は、改革された安全保障理事会において、新常任理事国になることを目指し、相互の立候補を支持することを改めて表明した。

13 G4外相は、全加盟国が「安全保障理事会の改革の議論に新しい命を吹き込むことにコミット」した国連創設75周年記念宣言を想起し、安全保障理事会の改革を決定的に前進させるプロセスを共同で後押しするためのロードマップの作成を実現するため、来年初めにG4局長会合を主催するとのドイツのイニシアティブを歓迎した。

ニューヨーク

2022年9月22日